

日中経済交流研究会新聞

日中経済交流研究会 2月例会報告

訪日団報告会「グローバルに活躍する国内企業を訪れる」
～2020年度訪日団参加者による報告～

日 時 2021年2月16日(火) 18:30～ / 場 所 Zoom / 参加人数 35名

コロナ禍の今年度は、毎年恒例の「訪中国」の別企画として「訪日団」を実施。海外に進出している企業経営者の話を聞き、成功の奥の手を探るとともに、外国人になったつもりで国内のホテルに一泊するという行程で(株)三栄金属製作所の文敬作さん、(株)津川製作所の津川礼至さん、摂陽観光の藤原雅彦さん、道頓堀ホテルの橋本明元さんの協力により実現しました。日中経済交流研究会(以下「日中」)入会歴の浅い会員による参加報告を抜粋して紹介します。



心財育成(株) 安達 美由紀さん

人材育成の教育事業をしており、心を育むという教育をしているので、その視点を持って参加しました。人が大切にしていることに自分自身が気づくためには、学ぶということがとても大事だと考えています。4名の経営者の皆さんは、自らがどんな思いを実現したいかを大切にしていると感じました。社員が学んだり、研究したりする機会を設け、日々社員と向き合い、お客様にもしっかり向き合っていて、人を育むということを大事にしていました。

また、相手を思いやる心があるのは当然のことながら、経営者が社員とともに自分の思いを実現するという、自分への思いやりがあることを十分感じることができたのは貴重な経験でした。同時に、自社の役割、存在価値があることも実感でき、ありがたい機会となりました。

(株) アイナレッジ 妹尾 順次さん

新しい事業に積極的に挑戦している津川さんの姿が印象的でした。会議室に社内イベントの写真、従業員の言葉などが貼られていて、文さんの人柄が感じられました。2社ともベトナムの方を大勢雇用していて、笑顔であいさつしてくれる様子に社風のよさを感じました。

現在の保険代理店を経営する前、若いころに旅行会社に勤めていました。その会社や取引先関係でも倒産が相次ぐ中、60年も続いている藤原さんはすごいと思いました。障害のある方の旅行をオーダーメイドで企画実践するという取り組みも素晴らしいです。橋本さんの話では、コロナ禍の中でも社員全員が一致団結して会社を守ろうとしているのが感動的でした。経営ビジョンに「共に幸せと誇りを感じる会社」とありましたが、弊社もそのように素晴らしい会社にすることができたらどんなに幸せかと、自分自身感じることができました。

大阪総合人財経営(株) 佐藤 充さん

事業ではお客様の経営理念策定に携わっていますが、自社の10年ビジョンが描けずにいました。会計事務所は10年後にはAIに淘汰(とうた)される業種と言われていて、代行業務担当のスタッフたちに消えゆく仕事だと伝えねばならないのがつらかったのです。

今回の参加で、ビジョンが明確にあるからこそ、人を大事にできるのだと痛感しました。また、大変な状況下でも、未来を見てチャレンジする、解雇をしないと決断して社員教育に取り組む話を聞き、自社のウリが自分の中で明確になりました。

先日の経営計画発表会で、代行業務とコンサル業務をうまく融合することで、未来に向かっていけることを社員や社外に発信できました。スタッフたちにこれからも活躍の場があると話せたことが一番よかったと感じています。

(株) 平和化研 福田 百合乃さん

社員たちに、津川さんは集中できる環境を、文さんは楽しく過ごせる環境をつくっていました。文さんの弟である専務さんが社員に何度も感謝の言葉を投げかけているのを見て、風土づくりは経営者自らがやっていくものだ、自分も社員の顔を見て自分から声をかけていこうと思いました。

父母が創業した電気亜鉛めっき業を営む会社でのストライキ発生を機に入社しました。コロナ禍の影響は大きく退職者も多くいた中「辞める人がいることに胸を痛めないで、今残っている自分たちに目を向けてほしい。僕たちは頑張りますよ」という社員に励まされました。その体験から、橋本さんの話はとても熱く感じました。経営者と社員、皆が同じ方向を向いた時に双方向になれる、お互いがきちんとそこに向かっていくのだという感覚を実感できました。

(まとめ 日中経済交流研究会 広報委員会)